

『長登銅山跡』Ⅱ（美東町文化財調査報告第五集）

本書は、山口県美祢郡美東町に所在する長登銅山跡の、一九八九年度から一九九一年度までの発掘調査の報告書である。東大寺大仏の料銅の産地であることが明らかになり、また銅生産に関わる多数の木簡が出土した遺跡として著名である。本誌一三号、一四号で紹介されたものを含め、計七五点の木簡が出土しており、このうち釈読可能な四九点について、実測図と写真（一部赤外線テレビカメラの画像を併用）を掲載する。

また、池田善文「古代の採銅をめぐって」、池田善文「古代銅製錬の実態と若干の問題点」、巽淳一郎「長登製銅所出土土器について」、池田善文「土器の基準資料と編年について」、小池伸彦「長登銅山出土の古代の木製品について」、八木充「長登木簡からみた古代銅生産」の六編の論考を収録する。

申込先 美東町教育委員会

〒七五四―〇一 山口県美祢郡美東町大田六一七―〇一

TEL 〇八三九六一―二一〇五五五

頒価 五〇〇〇円（送料込み）

B5判 二二六頁